

大地から小さな学校のおたより

ブラジル第3アリアンサ富山県日本語学校便り NO18 1月号



新年明けましておめでとうございます。

ブラジルで2度目の正月を迎えました。連日続く大雨は、収まる気配もなく、昨年より涼しい夏を過ごしています。たまに見られる青空がすがすがしく、ブラジルの思い出の風景となりつつあります。

この季節はもちろん夏休みがあります。今年のブラジル公立学校ではカーニバルが終わる2月18日までが夏休みだそうです。日本語学校は1月28日から始まりました。

新年会

毎年恒例の新年会が行われました。今年も、第3アリアンサ出身の方々がたくさん集まりました。今年私は私が雑煮を担当し、皆さんにおもてなしをしました。いつの間にか、私は第3アリアンサの料理人になってしまったようです。今年も餅つきをしました。青年たちが中心となって餅をついていましたが、これが見事な手さばきで日本の若者の中で、これほど餅つきを上手にこなす人はどれくらいいるのだろうと、ふと考えてしまいました。



結婚式に行ってきました。



ブラジルの結婚式はキリスト教徒が多いので教会での式がほとんどだそうです。日系人はかつて日本式の神前式を行っていた人達もいましたが、今は教会で式を挙げる人が多いと聞きました。うん？日本でもチャペルで結婚式を挙げる人が多くなりましたね。しかしブラジルでは、日本のように宗教とは関係なく挙式を上げるのとは違います。

アリアンサは、もともとキリスト教信者が多い場所です。なぜなら、アリアンサ移住はキリスト教が母体となって行われたために移民政策の段階でキリスト教に回心し移住した方々が多いからです。これには時代的な背景も見られます。島国日本から移住するには、外国文化を吸収してから移民した方が、より移民者には苦労が少ないだろうと考えられた策でもあったと聞きました。

一方で仏教を信じ渡った人もいます。第3アリアンサにはお寺があるのです。ブラジルにはたくさんのお寺があります。目の前にある現状をよく見るとブラジル移民の歴史を振り返ることができます。自分もそのブラジル移民の歴史の中にいるのだと実感できる機会でした。

今年はリシアがたくさんなりました。

リシアとはライチのことです。このライチは、実がなる年とそうでない年があるそうです。その基準は、冬を経験しているか、していないかによるそうです。昨年の冬は、いつもよりも雨が多く、寒さを経験したため、今年はたくさんライチができたのだろうと村の人たちは言っていました。あまりにも豊作だったので、写真を撮るように誘われ、そのお宅へお邪魔してきました。本当にたくさんのライチがなっていました。このお宅ではなんと4年ぶりだったそうです。



ブラジル各地には鳥居があります。



日系人が日本から持ってきたものの中に、味噌や豆腐、スイカやイチゴ、大根などの冬野菜などを紹介される時がよくあります。その他町の中に行くときよく目にするのが、この鳥居です。鳥居は日本では神社などで見えますね。ブラジルの場合は、昔はきっと神様を祀るためにつくったと思われますが、今ではオブジェのように置かれています。しかしそれは、日系人がそこにいるという証拠でもあります。その他に、ブラジルの大地で竹藪を見ることがあります。これも日本人が持ってきたもので、大地の中で竹藪があれば、そこにはかつて日本人が住んでいたという証にもなっているようです。ここアリアンサでも、かつては日本人が住んでいたのだらうと思われる竹藪を見ることができます。

高学年林間学校がありました。

今年の高学年林間学校は、第1アリアンサで行われました。ノロエステ地区と呼ばれるこの地区全体から60名の生徒が参加しました。今年、私が紹介したのは雪合戦ならぬ「新聞合戦」です。工作を活用した遊びという観点から、この新聞合戦を考えてみました。雪の代わりに新聞を、旗では習字でチーム名を書き、その旗にめがけて新聞を当てれば勝ちというルールで行って見ました。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、雪合戦は1988年日本でルール化されたスポーツです。その様子をプロジェクターで紹介しました。雪のないブラジルで、ちょっとした疑似体験をしてもらいました。雪にあこがれる人たちがたくさんいます。何年後かにこの生徒たちと日本で会った時には、雪合戦をしてみたいものです。

その他、原生林が残るアリアンサでは、森林探検をしたり、毎年恒例のキャンプファイヤーをしたりしました。中でも今年は火文字作りが一際目立った活動でした。各班片仮名で火文字を作り、その言葉に意味を込め発表します。そして火がつけられると、その文字が浮かび上がります。なんとも幻想的で、生徒たちの発表を聞くとしっかりとした理念を持ってこれらの文字を選んだことが分かりました。日本語をあまり使わないと思い込んでいた私でしたが、これなら新しい日系社会を築き上げる優秀な若者たちが育っているのだと実感することができました。キャンプファイヤーでは、自分たちで振付したダンス、お馴染みの「遠き山に日は落ちて」を歌いました。最後には地元の人が提供してくださった打ち上げ花火でキャンプファイヤーも本当の打ち上げとなりました。とても心に残るキャンプファイヤーでした。

なんと言ってもこの林間学校のメインは、生徒たちが作る日本語劇です。日本語で脚本を書き、演出し、衣装も考えます。今年はなぜかゲイの内容が多かったです。でもこの男女を超えた劇の素晴らしいところは、女言葉、男言葉を勉強できることです。ジェンダーを専門にしている人にはあまり良くない話かもしれませんが、日本語教育ではそこまでのことを教えようとしたら、中級以上となります。生徒たちの創造性は少なくとも私の気がつかなかった領域まで進むことができました。生徒たちの興味関心が語学教育における発展を押し上げることを垣間見た一時でした。

